



留学生の二人にインタビュー！

留学生として本校に昨年10月にイタリア出身のエマ・モルキオさんとドイツ出身のピア・ムルケさんの二人。今回の帰国に際して横須賀高校で過ごした日々についてインタビューを行いました。

Q1:横須賀高校の印象は？

最初、日本の高校は厳しいと思っていたけど、実際に来てみたら全然厳しくないし、みんな優しく話しかけてくれて嬉しかったです！また、みんないつも勉強をしているのに驚きました。

Q2:日本に来て驚いたことは？

部活があったことです。ドイツ、イタリアでは授業が終わったらすぐに家に帰るのが普通だけど、日本の高校は放課後に部活があってびっくりした。私たちは茶道部や英語部に参加していましたが、どの部活もとても楽しかったです！また、授業の時間やテストのやり方も自分の国とは全然違って驚きました。

Q3:横須賀高校で一番の思い出は？

体育祭です。ドイツではこれらの大きなイベントはなく、とても新鮮でした。また、体育祭の他にも校内大会など、横須賀高校は1年のなかにたくさんのイベントがあって、その度にクラスみんなで盛り上がる事ができて、とても楽しかったです。

Q4:最後に、横高生に向けてなにか一言！

「やりたいことは頑張ればできる！」ということです。私たちも、最初のころは日本語がうまく話せず苦労したけど、横高のみんながたくさん話しかけてくれたおかげで友達もたくさんでき、学校生活を楽しむことができました。これは、皆さんが留学をするときにも同じことが言えます。皆さんもこのことを心にとめて頑張ってください！



マレーシアからの訪問団にインタビュー！

6月20日～23日マレーシアからスルタンイスマイル高校の10名が横須賀高校に来ました。留学生たちは4日間、横高生の自宅にホームステイし、学校では国際交流委員とともに文化祭の準備を進めてくれました。文化祭では、民族ダンスの披露やオリジナルブースを作ってくれました。そのマレーシアブースではお米で作ったアートや民族衣装体験、アラビア文字のしおり作成、ヘナというボディペイント、伝統的なゲームができて、両日とても盛り上がっていました！文化祭準備で忙しい中でしたが、マレーシアのみなさんがインタビューに答えてくれました。



Qマレーシアの文化について教えてください！

私たちの国にはおいしい食べ物がたくさんあります。特にナレシマという食べ物は、最もポピュラーな料理です。これはココナッツミルクでご飯を炊いたものになります。

Q日本に来て、どうでしたか？

横須賀高校は生徒がとてもフレンドリーで楽しいです！また、日本ではメジャーな軽音楽部がマレーシアにはないので、中庭でも発表を聞いて驚きました。マレーシアは日本語学部や写真部など特徴的な部活があります。



シンガポールで開催の GLS に参加しました！

7月25日(木)～31日(水)にかけてシンガポールで開催された中高生による国際アイディアコンテストである Global Link Singapore 2024 に4つの研究グループが参加しました。このコンテストは英語で発表し、質疑応答にも英語で答えるという難易度の高いものですが、どの研究グループも素晴らしいプレゼンテーションを行いました。今回は参加した2年5組内藤雄大さんから感想を聞きました。グローバルリンクシンガポールに参加した生徒と研究内容は以下のとおりです。

【研究内容】

「Plant Diversity of Miura Peninsula」 3年 高田 夏音さん

「Satiety Meter: Visualize feeling of fullness」

3年 ディキャラ 幸一さん

「A rover for the Shackleton Crater」 3年 趙 未努さん

「Consideration of shock absorbers on the Mars satellite Phobos」

2年 江澤 陽樹さん、高田 海星さん、田外 智也さん、内藤 雄大さん



私たちは7月25日から7月31日の7日間シンガポール研修に行きました。最初の3日間はグローバルリンクシンガポールに参加し、それぞれの研究を発表しました。分野は3つであるのに対し、アジア各国から集まる人の数は想像以上に多く、台湾やベトナムの生徒を中心に交流することができ、英語力だけでなくコミュニケーション能力なども伸ばすことができました。また、日本の生徒も多く参加しており、とても有意義な時間を過ごすことができました。このコンテストが終了してからは市内散策に出かけ、主に電車を使用しました。その時、電車では水を飲むこともいけないということを知り驚きました。様々なハプニングがありながらも楽しい時間を送ることができとても貴重な体験となりました。

2年5組 内藤雄大

❀ 姉妹校との交流を紹介します ❀

7月28日(日)～8月5日(月)に、オーストラリア海外研修を実施しました。ホームステイをしながら、月曜から木曜の4日間 Shafston International College で語学研修を行い、金曜は姉妹校の Benowa State High School へ訪問し交流を行いました。

ベノア高校(姉妹校)と交流 @オーストラリア



私たち1・2年生合わせて19名は7/28～8/5にオーストラリアのブリズベンへ行ってきました。訪問団には全く喋ったことのないメンバーもいましたが、事前研修の英会話教室やプレゼン練習を通じて、少しずつ仲を深められたので、当日がより楽しみになっていきました。オーストラリアは南半球に属していて日本とは季節が逆だったので、とても涼しく天候にも恵まれて楽しく過ごすことができました。例えば、白い砂のビーチやナイトマーケットに行ったり、カンガルーを触ったり、コアラの食事シーンを見たりと、日本では体験できない光景が広がっていて刺激的でした。オーストラリアは人種のサラダボウルと言われているだけあり、アジア街も多く、夕食ではオーストラリアの料理ではなく日本食を食べたグループもあったようです。1週間という短い間でしたが、ホストファミリーとは今でも連絡を取り合う仲なので、来日した際には日本を案内してあげたいと思いました。

2年5組 亀山やすみ

私はオーストラリアへ行き自分の知らなかったことを多く知ることが出来ました。全て英語の環境に身を置くことで自分の英語力を測ることができ、自分の話せる範囲を痛感しました。私が1番印象に残っているのは否定疑問文の答え方です。否定疑問文でホストマザーに質問され答え方を間違えてしまうということが複数回あり、英語を学ぶ際よく触れる文ではあったので実際に話すと難しいことを実感しました。そして、私は文化についても学ぶことが出来ました。動物園へ行きオーストラリアならではのコアラやカンガルー、エミュー、ウォンバットなどを見ることができ私はコアラやカンガルーに触れ合うことが出来ました。オーストラリアには様々な国の人が混在していて多くの文化に触れることが出来ました。私のホストファミリーはブラジル出身でホストマザーはブラジル料理を振舞ってくれました。味わったことの無い食感や組み合わせがあり面白かったです。

1年3組 村田夢



第18回高校生理科研究発表会に参加しました！

2024年9月28日、千葉大学工学部西千葉キャンパスにて第18回高校生理科研究発表会が開催され、PrincipiaⅡの3チームがポスター発表を行いました。どのチームも熱心に口頭発表を行い、2年4組湯浅さんと2年5組杉山さんの「天神島のプランクトン相の周年変化」が先進科学センター長賞を受賞しました。以下、発表メンバーと探究内容です。

【探究内容】

「天神島のプランクトン相の周年変化」

2年湯浅 実華さん、杉山 佳織さん

「Consideration of shock absorbers on the Mars satellite Phobos」

2年 江澤 陽樹さん、高田 海星さん、田外 智也さん、内藤 雄大さん、Tommaso Tarantino さん

「人工衛星から見られる植生の変化」

2年近藤 俊太さん、芹澤 春希さん、田中 愛望さん、中里見 奏太さん、米田 朝陽さん

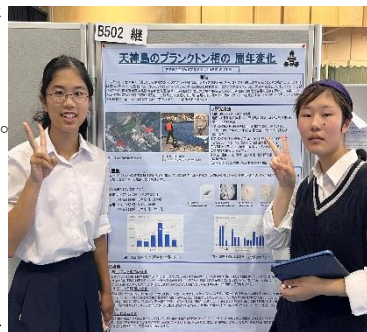
「天神島のプランクトン相の周年変化」

自分たちでも驚きと興奮であつと言う間の日でしたが、これまでの研究の成果と努力を精一杯伝えきったことで熱意が伝わり、今回賞をいただけたのではないかと思います。本当にうれしく思います。全国からさまざまな研究が集まり、高レベルな発表が行われる中、審査員や実行委員の先生から自分たちの研究の欠点を沢山指摘していただくことで現状に満足せず、新しい視点や改善点を見出すことができ自分たちの成長につながったと思います。自分たちの研究をもう一度見直すことの重要性を再確認できとてもいい機会となりました。これからも様々な学会に参加し、もっといい研究にしていきたいです。

2年4組 湯浅実華

今回高校生理科研究発表会は関東に限らず、岩手県や兵庫県などの全国の高校生が参加する研究発表会でした。私たちは、今回で5回目となるポスター発表であり、場慣れしていたため発表だけでなく質疑応答に対してもスムーズに行うことができました。たくさん発表の場を経験することが大切であると実感しました。前回のポスター発表でもらったアドバイスをもとに、たくさんの試行錯誤をしたポスターが評価をされたことは私たちにとってとても喜ばしいことでした。発表当日も、たくさんの審査員の方々にご指摘いただき、有意義な時間を過ごすことができました。今回、色々な方々からいただいた意見をもとに、研究内容をより良いものにしていきたいと思います。

2年5組 杉山佳織



「Consideration of shock absorbers on the Mars satellite Phobos」

今回参加した高校生理科研究発表会では、探究活動において、設定した課題を達成する為のアプローチ方法を他者の研究から学び、そして、自分達の班が行った探究活動に関する評価できる点と改善すべき点がどこにあるの



かについて審査員の方々や他の参加者から意見を頂くことができました。私たちの発表では、発表をしながら考え、頂いた意見を現在の principiaⅡでの研究に落とし込むことを目的としました。他の発表者のポスターを見た時私たちの研究には、実験をするのに十分な論理的仮説がなかったこと、そして第一にデータ数の不足が問題であると感じました。なので、今後の探究活動では、実験を行う日程などの作業工程をスケジュール化することで効率的かつ進行状況を可視化し、これらの問題を解決していこうと感じました。今回の発表を通して、課題に対しての理解を深め、仮説を立てる十分な時間を確保しなければならないということを学びました。

2年2組 江澤陽樹

「人工衛星から見られる植生の変化」

僕たちの班は、人工衛星から得られるデータを元に地球上の植生について考える研究をしています。初めてこのような大規模な研究発表会に参加し、たくさんの方々のことを吸収したいという気持ちで参加することができました。審査員の方々からの質問は高度なもので、わたしたちにはなかった視点や考え方を発見することが出来ましたし、同い年の高校生の発表を聞くことで、大きな刺激にもなりました。このような気づきや刺激は、大きな研究発表会に参加したからこそ得られるものであると思うし、自分たちの研究をもっともっとよりよくしていくために、このような発表会にこれからもより一層積極的に参加していきたいと思っています。

2年2組 近藤俊太





78 期研修旅行@沖縄を実施！

12月3日～6日の3泊4日、沖縄にて研修旅行が行われました。2日目と3日目の午前中は各クラス違ったテーマで探究活動を行い、実際に現地を訪れてお話を聞いたり、様々なことを学んだりしました。今回は各クラスの SSH 委員に探究活動の内容と感想を聞きました。

1組と4組はSDGsについてグループで考えた後、海岸でのフィールドワークをして沖縄のサンゴ礁や貝などを実際に見てきました。沖縄の美しい自然を間近で見た後は、「この自然を壊してはいけない」という意識がより高まり、その後のポスター発表では各グループ環境問題解決への様々な案を発表しました。琉球大学の方からも沖縄の自然についてたくさんお話を聞くことができ、とても良い経験になったと思います。

1組 SSH 委員
後藤・吉田



5組は海洋ごみ問題について学び、その解決策をプレゼンテーションにまとめ発表しました。水中ゴミ拾いという活動をしている、ダイバーさんにお話を伺ったところ、ゴミ拾いを「楽しむ」という斬新な視点が得られました。その後、浜辺のゴミ拾いを経て、今後の理想とその実現方法を話し合いました。

5組 SSH 委員 小熊・二宮

2組は沖縄の農業について実際に沖縄の農家の方から直接教わる事ができました。今の日本の農業の問題点は何となく理解できていたけれど、沖縄ならではの問題点も理解することができました。また、自分達が行動することができれば、沖縄の農業の問題点を自分達の力で少しずつ改善できる事を知り、今後の暮らし方を変える一つのきっかけとなりました。

2組 SSH 委員 近藤・江澤



6組では、しかたに自然案内様ご協力のもと、実際に沖縄の海でマイクロプラスチックを回収して海洋ゴミ問題について学びました。また、講演の中で環境問題を「時間」で考えることをレクチャーして頂きました。その後のプレゼンテーションでは、講演を通じて各班個性溢れる発表が見られました。

6組 SSH 委員 亀田・作田



3組は普天間基地を訪れました。研修旅行前は普天間基地に対して理解は浅かったのですが、実際に訪れて騒音を間近に感じたり、現地の人の声を聞いて基地問題の現状と解決に向けた行動を考えられました。横須賀市にもある基地問題とはまた違った基地問題について考えることができ、基地問題は他人事ではなく、自分たちの生活にも影響する重要な問題であると考えられ、良い経験になりました。

3組 SSH 委員
瀬田・北原



今回の研修旅行では沖縄の基地問題について現地の人の意見を聞いたり、実際に基地を見ることが出来ました。今回学んだ基地問題について、もっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。また、自分たちも基地問題についてさらに知るべきだと思いました。

7組 SSH 委員 湯浅



第1学年校内研修(Global Village Program)を実施しました！

12月4日～6日の3日間、校内にて1年生対象のGlobal Village Programが行われました。この研修は各クラス5名程度の留学生を呼び、英語のみを使用してSDGsについて討論し、プレゼン発表をするものです。今回は各クラスのSSH委員に感想を聞きました。

様々なテーマについて、グローバルリーダーの方や班員たちとたくさんの意見交換を行いました。また、計四カ国の方々のSDGsに関する現状をインタビューし、それらを生かしてプレゼンテーションを行いました。この活動で、英語で会話することの難しさを感じましたが、それぞれの国がどのような取り組みをしながらSDGsと向き合っているのかを知ることができたので良かったです。

1組 SSH 委員 鈴木・荒木

海外に行かずとも外国の方と英語での交流ができるという貴重な体験ができました。最初は緊張していましたが、次第に会話できるようになり、意見を相手に伝える力が身についたと思います。また各国の方々のコミュニケーションを通じて視野が広がり、日本文化を再び考えるきっかけにもなりました。この経験を活かし、国際的な視野をさらに広げていきたいと思います。

2組 SSH 委員 林・武田



最初はうまく英語で話せるか緊張しましたが、留学生の多様な文化や視点を知ることによって会話が楽しくなりました。言語の壁を越えて、共通の興味を見つけることもできました。英語を使うことで自信が付き、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流の大切さを実感しました。この経験は、私たちの視野を広げる素晴らしい機会になったと思います！

3組 SSH 委員 近江・小堺

最初は英語だけで話すことがとても大変で、言いたいことをうまく伝えられずに気後れしてしまいました。しかし、このプログラムを通して、言葉に対する恐れや「SHYにならないこと」の大切さを学びました。人とコミュニケーションを取るためには、完璧な言葉や表現を求めるよりも、まずは自分の気持ちを伝えようとするのが大切だと気づくことができました。

4組 SSH 委員 辻田・長谷川

言語の壁という大きな問題を抱えながら3日間コミュニケーションを取ることはとても難しかったです。でも話していくうちに、完璧な言葉で話さなくても、自分が分かる単語を簡単な文法に当てはめ、コミュニケーションをとることができました。なので大切なことは完璧にこなそうとするのではなく、積極的にコミュニケーションをとろうと挑戦することが大切だとわかりました。

5組 SSH 委員 藤田・石原



今回の研修を通して、英語に自然に触れ合うことができたと感じました。英語でコミュニケーションをとることは難しかったけれど、お互いにジェスチャーをとるなど工夫しながら会話をし、とても良い経験になりました。また、グローバルリーダーたちの国についても学び、言語だけでなく文化の違いも楽しむことができました。

6組 SSH 委員 大川・町田



Global Village Programの前半では価値観の違いや表現の違いを楽しみながら様々な国から来日している留学生とのディスカッションを行いました。後半のプレゼンテーションでは、うまくできるか不安だったけれど、グローバルリーダーの方々に支えられて、三日間乗り越えることができました。

7組 SSH 委員 成井・原田